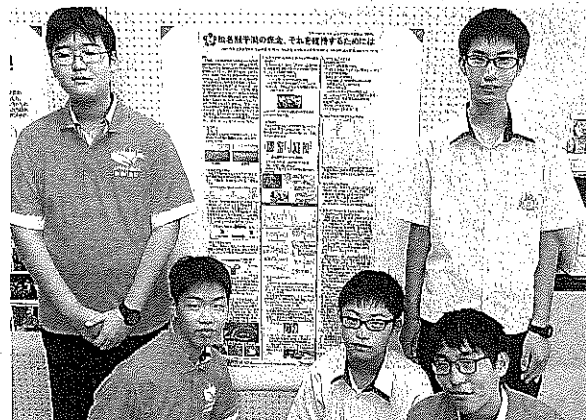


科学技術部が、2017年9月26日（火）「朝日新聞の三重版」で日本地理学会秋季学術大会の高校生ポスターセッションに参加することなどが紹介されました。

## 干潟・台風…日頃の活動発表

29、30日 地理学会に合わせ高校生



研究成果を発表する三重高・科学技術部の生徒たち＝松阪市久保町

三重大学（津市）で日本地理学会秋季学術大会が開かれるのに合わせて、同大環境・情報科学館で29、30日、全国の高校生がポスタ

ー22件を掲示し、日頃の活動を発表する。県内からは県立四日市、県立松阪、セントヨゼフ女子学園、三重の4校が登場。「ロシアと

の日本酒ビジネス」「台風  
の秘密」、歩いて貧困国な  
どへ寄付を募る「ウオーカ  
ソン」などがテーマだ。30  
日午前11時から約1時間、  
生徒が会場で発表する。

三重高の科学技術部は、  
松名瀬干潟の調査や、現地  
で観察会を企画しているこ  
とを発表する。小山裕暉部  
長（2年）は「干潟は生物  
が多様で、干潟自体が浄化  
作用を持つ面白さも知って  
もらえれば」と話す。

◇ 学術大会の一環で、30日  
は四日市公書の教訓やアジ  
アとの環境協力を考える公  
開シンポジウムがある。

大学の研究者や「四日市  
公書と環境未来館」の關係  
者が講演。韓国、中国、モ  
ンゴル、ベトナムの環境問  
題についても報告する。

午後1時～5時、人文学  
部3階。無料。定員240  
人。問い合わせは大会委員  
長の朴恵淑教授（059・  
2311・9157）。